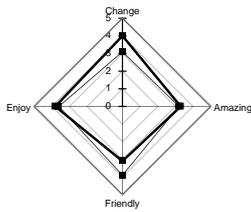


教育課程の展開例を活用したタブレット活用のアイデア

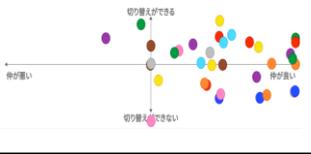
1 活用した教育課程の展開例 → 学活-68「2学期の目標づくり」

2 展開例を活用したタブレット活用のアイデア

① アンケート機能を活用して、集計結果をグラフで提示し、4月と9月の変化をつかむ。



② ポジショニング機能を使って、生徒が考える学級の状況を把握する。



③ ロイロノートふせんを使って、提出させ、「良いところ」「改善すべきところ」「改善案」などを集約する。

4 指導過程

学習活動	指導上の留意点
1 話合いのめあてをつかむ。	○ 話合いのめあてを黒板に示しておく。
 <p>学級目標の到達度評価用紙の4月と9月の違いに注目して、2学期からの学級の目標や自分ができていることを考えましょう。</p>	
2 学級の現状を共有する。	○ ワークシートは事前に配付し、あらかじめ学級目標の到達度評価用紙を見て気付いたことを記入させておく。
(1) 学級目標の到達度評価用紙を見て、気付いたことを発表する。	
 <p>はじめがつけられるようになったから「切り替え」が増えているのかな。「仲良く」が減っているのは、みんなと話ができないからかな。</p>	
(2) 学級のよいところと今後の課題を考え、ワークシートに記入する。	○ 学級のよいところと今後の課題を捉えるために、学級目標の到達度評価用紙の4月と9月の違いに着目することを司会から伝えるように促す。
(3) よいところと今後の課題について全体に発表し、全員で共有する。	○ ワークシートに記入した後は、よいところと今後の課題で色分けをした短冊に書いて、発表の準備をしておくようにする。
発表する際は、黒板係が短冊を黒板に貼ることで、全員が学級のよいところと今後の課題について、一目で捉えられるようにするとよいでしょう。	
3 2学期の学級目標について話し合う。	○ 「黒板に貼ってある短冊に注目」して、学級のよいところを伸ばしつつ、今後の課題を解決するための目標案を考えるように声を掛けることを司会に助言する。
(1) よいところと今後の課題を基にグループで2学期の学級目標について話し合う。	
 <p>○組ははじめがついているから、あとは2学期の行事でみんなが笑顔で過ごすことができれば、「仲良く」なれるはず。2学期の目標は「どんなときでも、どんなことでも話し合い、行事に向けて一つになるう」にしよう。</p>	
(2) グループで出された意見を発表し、2学期の目標について全体で討議する。	○ 2学期の目標を発表する際は、理由を示しながら述べることを司会が伝えるように促す。
	○ グループから出された意見を全体で討議する際は、似たような意見をまとめると集約がしやすくなる。
4 2学期の学級目標を基に、2学期の個人目標を考える。	○ 自分の長所を生かして、自分ができていることをワークシートに書くように促す。

3 タブレット活用の有効性について

- ① アンケート機能を用いることで、学級目標の到達度を数値化することが容易である。また、その通知をレーダーチャートやグラフなどで示すことで、月ごとの変化について視覚化でき、どの点が伸びていて、どの点が改善すべきなのかを把握しやすい。
- ② ポジショニング機能を用いることによって、学級の現状について即時的につかむことができる。また、数字では表されない、生徒一人一人の考え方も瞬時に見ることができる。
- ③ ロイロノートのふせんを使うことで、学級の「良いところ」「改善すべきところ」「改善案」を色分けして集約することができる。そうすることで、それぞれの意見の数や内容の違いを把握しやすくなる。